

## 結核集団感染の発生について

平成30年8月9日  
健康福祉部薬務感染症対策課  
結核・感染症グループ  
担当：細谷・岩西・山田  
内線：3257・3353・3255  
直通：087-832-3304

### 1 概要

東讃保健所管内において発生した結核患者について、接触のあった関係者を対象に調査したところ、厚生労働省の定める「結核集団感染」（参考1参照）に該当すると判断したので、平成30年8月9日付けで厚生労働省に報告しました。

- 結核患者 3名（初発患者含む）
- 感染者 9名

「結核患者」 結核菌に感染し、結核菌が活動し始めて体の中で増殖している状態。病状が進み、結核菌を排出（排菌）するようになると、他者へ感染させるおそれが生じる。

「感染者」 結核菌に感染しているが発病していない者。他人に感染させるおそれはない。少量の抗結核薬を服用することで発病を抑えることができる。

なお、現時点で他人に感染させるおそれがあったのは初発患者のみで、結核患者・感染者とも結核病床を有する医療機関等において適切な治療を受けており、今のところ感染拡大のおそれはありません。

### 2 患者概要

- 1) 平成30年5月1日届出 技能実習生 20歳代 女性（初発患者）
- 2) 平成30年6月8日届出 技能実習生 30歳代 女性（結核患者1）  
8月3日結核菌検査判明
- 3) 平成30年6月22日届出 技能実習生 20歳代 女性（結核患者2）  
8月6日結核菌検査判明

### 3 初発患者の概要（ラオス国籍 技能実習生 20歳代 女性）

- 平成29年12月下旬 咳、痰の症状あり（日本への入国前）  
ラオスにて語学研修を受講した。
- 平成30年2月21日 ラオスから来日し、同時期に来日した技能実習生とともに入国講習（座学）を受けた。（善通寺市内）
- 平成30年2月28日 健康診断を受けた。
- 平成30年3月19日 健康診断結果を持参して技能実習先（さぬき市内の農場）に配属された。（受診勧奨）
- 平成30年4月26日 健康診断を受け、胸部レントゲンにて異常を指摘された。
- 平成30年4月27日 結核病床を有する医療機関を受診し、肺結核の疑いで入院した。
- 平成30年5月1日 肺結核と診断され、東讃保健所が結核患者発生届を受理した。
- 平成30年8月3日 退院し、帰国した。

#### 4 経過

- ・平成30年5月1日 医療機関から東讚保健所に結核患者発生届出があった。
- ・5月～7月 東讚保健所と関係機関が連携して、患者と接触のあった実習生や職員に対し、接触者健康診断（参考2参照）を実施した。
- ・平成30年8月3日 結核患者1の結核菌の培養検査を行ったが、結核菌が増殖しなかったため、遺伝子型が確認できなかった。行動調査結果を勘案し、初発患者と同一感染源とみなした。
- ・平成30年8月6日 初発患者と結核患者2の結核菌の遺伝子型の一致が報告され、同一感染源であることが確認された。
- ・平成30年8月9日 結核集団感染として厚生労働省に報告した。

#### 5 接触者健康診断の概要

- (1) 初発患者と同時に来日し、長時間同じ空間で講習を受けた技能実習生等25人と、技能実習先の職員7人の接触者計32人に接触者健康診断を実施した。
- (2) 接触者健康診断の結果は、血液検査、胸部レントゲン・CT検査から結核発病者診断された者が2人、血液検査で感染が確認された者が9人、異常なしの者が18人、結果待ちの者が3人であった。

【接触者健康診断の結果内訳（平成30年8月9日現在）】（初発患者含まず）

	接触者健康診断対象者数	検査結果			
		結核患者	潜在性結核感染者	異常なし	結果待ち
入国講習等	25	2	8	12	3
職場(実習先)	7	0	1	6	0
合計	32	2	9	18	3

#### 6 今後の対応

接触者健康診断の結果、結核患者、潜在性結核感染者と診断された方について、治療（予防内服）終了後、2年間、各保健所が経過観察を行う。

<参考>

##### ○参考1 「結核集団感染」（厚生労働省報告基準）

同一の感染源が、2家族以上にまたがり、20人以上に結核を感染させた場合をいう。ただし、初発患者を含まず、患者1人は6人に感染したもとして感染者数を計算する。

※今回の場合、現時点において結核患者2名、潜在性結核感染者9名であるので、次の計算となる。

$$\rightarrow \text{患者} 2 \text{名} \times 6 + \text{感染者} 9 \text{名} \times 1 = \text{感染者数} 21 \text{名}$$

##### ○参考2 「接触者健康診断」

結核患者が発生したとき、長時間にわたり同じ空間を共有するなど、結核に感染する可能性があった人に対し、感染や発病の有無を確認するために行う。

①血液検査（IGRA 検査）…感染の有無を確認します。この検査は、感染による反応が現れる時期（感染後2～3か月）に実施します。

②胸部レントゲン検査…結核の発病の有無を確認します。

○参考3 「感染と発病の違い」

	感染（潜在性結核感染症）	発病（肺結核）
結核菌の状態	結核菌は体内にいるが、免疫で封じ込まれて <u>活動せず潜伏している状態</u> 。	感染をした後に、 <u>結核菌が活動し始めて体の中で増殖している状態</u> 。
症状	なし	症状が進むと咳や痰などの症状が出現することがある。
胸部レントゲン検査やCT検査の結果	異常なし	白い陰影等がみられる。
人に感染させる可能性	周りの人に結核を感染させることはない。	治療をしないで結核が悪化すると、痰の中に結核菌がでてきて、人に感染させてしまう可能性あり。

## 結核について

### ～結核は過去の病気ではありません～

結核は、50年前までは、死亡原因の第1位で「国民病」と恐れられていました。

医療や生活水準の向上により、薬を飲めば完治できる時代になりましたが、香川県でも毎年100人以上、全国では1万7千人以上の新規の結核患者が報告されており、決して過去の病気ではありません。

#### <結核とは>

結核とは、結核菌によって主に肺に炎症が起こる病気です。最初は、風邪に似た症状で始まります。下記に当てはまる場合は、早めに受診しましょう。

①痰のからむ咳が、2週間以上続いている。

②微熱・身体のだるさが、2週間以上続いている。

#### <感染経路>

結核患者の咳やくしゃみ等のしぶきに含まれる結核菌が、空気中に飛び散り、それを吸い込むことで感染します。(空気感染)

ただ、結核菌に感染しても必ずしも発病するわけではありません。通常は免疫力により結核菌の増殖が抑えられることの方が多いのですが、高齢者や乳幼児・若年層、ステロイド剤・抗がん剤を使用している方や糖尿病、HIV等で免疫が弱っている方は、結核に感染・発病しやすいと言われています。

#### <治療>

結核と診断されても、6か月～9か月間毎日きちんと薬を飲めば治ります。

#### <予防方法>

2週間以上咳や痰が続いたり、健康診断で異常があれば、速やかに医療機関を受診しましょう。早期発見は、本人の重症化を防ぐためではなく、大切な家族や職場などへの感染を防ぐためにも重要です。

また、健康的な生活が予防につながります。

①適度な運動

②十分な睡眠

③バランスのよい食事

④定期健康診断を受ける

★抵抗力の弱い赤ちゃんは、結核に感染すると重症になりやすく、生命を危うくすることがあります。予防にはBCG接種が有効です。接種方法等の詳細は、お住まいの市町(予防接種担当課)にお問い合わせください。

#### 報道にあたってのお願い

今回の報道発表は、県民の皆様及び企業等関係者への結核に関する啓発を目的としております。報道にあたっては、患者等の個人に係る情報について、プライバシー保護等の観点から提供資料の範囲内での報道に、特段の御配慮をお願いします。